

2026

4.22 (水) 12:10
12:50

12:10-12:15

◆発表者紹介

12:15-12:40

◆プレゼン

12:40-12:50

◆質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_95Djb0shQ12nqYtZoR1VvA

【技術支援】九州大学 Q-AOS

第84回西日本文化賞奨励賞の受賞医師が語る
「吃音の理解と支援」

Key Words

吃音症

多様性

医師

菊池 良和 助教

九州大学病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科

中学1年生の時、「吃音の悩みから救われるためには、医者になるしかない」と決意しました。猛勉強の末、鹿児島ラ・サール高校を卒業し、1999年に九州大学医学部に入学いたしました。医師となり2年間の研修を終えた後、2007年に九州大学耳鼻咽喉科に入局しました。2008年からは九州大学大学院へ進学し、臨床神経生理学教室にて「脳磁図 (MEG)」を用いた吃音者の脳研究に従事。その成果は国内外で高く評価され、数々の賞をいただいております。現在は、九州大学病院の耳鼻咽喉科にて吃音外来を担当しており、これまでに600名以上の診察を行ってまいりました。吃音に関する著書はこれまでに16冊出版しており、現在は全国各地で講演活動も行っています。医師という立場から、吃音の臨床・教育・研究に日々精力的に取り組んでおります。

吃音症は、小学生以上の人口の約1%に見られる言語障害、および発達障害です。かつては「親の育て方のせい」「吃音のある子と一緒にいるとうつる」「努力すれば治る」といった、心ない誤解や差別を受け、多くの当事者が苦しんできました。私は、吃音を本人の努力不足による「癖」として片付けるのではなく、正しく医学的支援の対象とするために、これまで科学的な根拠に基づいた啓発活動を続けてまいりました。こうした活動を評価いただき、この度、賞をいただくことができました。「流暢に話す」という、多くの方にとっての当たり前が困難で悩んでいる方々を、どのように支えていくべきか。短い時間ではありますが、その方法を皆様に分かりやすくご紹介できればと思います。